



Title	経営試験データ処理のシステム化の現況について
Author(s)	笹木, 重和
Citation	北海道大学演習林試験年報, 4, 56-58
Issue Date	1987-03
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/72591
Type	bulletin (article)
File Information	1985_2-10.pdf



[Instructions for use](#)

II-10 経営試験データ処理システム化の現況について

経営研究部門 笹木重和

昭和59年の年報報告会において、経営試験実行記録のパソコン処理について初歩的経験をふまえて、その利・活用について述べた。この報告はその延長線のものである。

1. 経 過

昭和60年度に松山を除く各地方林に同機種 Model-60 が導入され、年度報告の ALL-MIGHTY への入力処理を行うこととなった。

しかしこの時点ではパソコンとしての利・活用は技術的に未熟なものであり作業の省力化は望み得なかった。1年間は試用期間と想定していたが、各地方演習林の習熟は予測よりも極めて早く、本格的利用のシステム化について多くの要望がだされた。

プログラムを開発し有効活用をはかる体制を整えるため、昭和60年6月の運営委員会において“システム開発委員会”の発足が承認され、天塩・中川・雨竜各地方演習林から各1名、札幌本部から2名、計5名からなる委員が選ばれ、第1回会議を7月10・11日の両日にわたり開催し、システム化の可能性・入力項目・出力帳表（給与計算と業務処理の二本立て）等の考えを整理し、給与関係については会計担当職員も加わって協議することになった。その後数回にわたる打合せの結果、現在地方演習林でメモ等で整理している内容を大きく変更することなく、帳表様式に必要とされるデータを入力・処理し、ALL-MIGHTY 上に作表されている各項目に転送することでプログラミングすることとした。

給与関係のように様式の統一化されているものは、プログラム化は容易であるとの判断から、会計掛関主任が窓口となって給与関係より先に着手し、現在は個人別月報段階で入力し、それぞれの帳表類の作成に稼働している。

困難を極めたものは、業務関係の帳表様式である。演習林の特徴として同じような作業内容であっても字句の表現が統一されておらず、今回のような処理に対しては極めてなじみにくい状況であった。これらの字句の選択あるいは経営規模の相違から生じる数値の単位等多岐にわたる諸問題を整理し、出力帳表の検討を行った。

事務的処理では容易であっても、これらのデータを教育・研究の場に提供する場合果して満足すべきものなのか否かも問題であった。研究者のご意見も不十分であるが聞き、大要として昭和60年年度報告様式に準じる形で帳表様式を整備した。また、札幌においての総括すべき帳表についても検討された。

そして、様式等の変更を要する場合には、プログラム作成中に改変する余地を残して着手した。次に入力・出力事項を示す。

2. 入力項目と出力帳表の一覧（業務関係については略記）

作業データの入力（日報）

1. 職員コード
2. 日付
3. 事業別
4. 項目別
5. 林班

6. 員数・時間 7. 出張区分 8. 超勤・欠勤時間

物件費データの入力（支払決議書）

1. 支払年月日 2. 事業名 3. 品名 4. 規格 5. 単価
6. 数量 7. 金額

出力帳表一覧

（給与関係）	（地方林処理）	（業務関係） （札幌処理）
作業データ一覧表	歳入・歳出総括表	各種事業別総括表
作業日報*	調査実行内訳	
勤務時間報告書	収穫調査実行内訳	産物処分数量・価格(手入力)
職員一覧表	種苗実行内訳	立木伐採数量調書
職員属性一覧表	育林実行内訳	技能補佐員人工数総計
控除額一覧表(手当兼用)	素材生産実行内訳	
基準給与簿(手当兼用)	土木実行内訳	
金種表	研究実行内訳	諸案簿表
手当入力データ一覧表	学生演習実行内訳	↓
休暇報告書	試験地実行内訳	（検討中）
報酬月額算定表	管理実行内訳	
年間データ一覧表	事業共通実行内訳	
源泉徴収表	公傷等	
個人別給与簿*	光熱水料内訳	
雇用形態別給与支給一覧	事業別物件費	
	車両費内訳	
	平均日額算出表	

* 業務と共通

以上、これら一連の出力する数値・表は多種多様な展開・結合を必要とし、そのデータ数もかなりの数になるので、コンピューター上にデータベースを構築し、データ加工・集積が安易で、保管（記憶）もわかりやすい形ででき、訂正等も容易であるなどの条件を加味した『QPRO-4』を採用することにより、システム化のみとおしを得た。

3. 今後の予定

昭和61年年度報告は、プログラム完成後、4月にさかのぼっての膨大な入力は大変な作業となるので、徐々に日報入力を行える方法も考慮して進行中であり、今年中には可能と期待している。

また、一枚のデータフロッピーではデータの格納能力に限度があり、多種多様な展開・結合を処理する場合、データフロッピーの交換を必要とする複雑な行程をたどらなければ処理できない。したがってプログラム自身にも交換処理を組み入れなければならず、一段と手間と時間のかかるものとなる。これらを部分的にでも解決する手段として、目下ハードディスクの取付けを予定している。

台帳等への転送は、内容・様式を検討中なので今後の可能性も含めて、プログラム中に転送窓

口を開けて作成する。この面では雨竜地方演習林の更新（新植）台帳を札幌で入力し、様式等も含めて先方に検討を依頼している。協議が整えば他地方演習林にも様式について協議したい。

さらに、これらの処理データを各種台帳にまで転記させ、また林班沿革簿の整理も考慮し、予定案編成段階のデータあるいは試験・研究の基礎データの引き出し・提供とその利・活用の拡がることを計画している。この利・活用について、関係者の具体的要望を出していただきたい。

最後に業務関係のプログラムが完成し処理することとなっても、数値としての処理であり細目・摘要・備考等に記入すべき事項は、ALL-MIGHTY上の表に手入力することにより、はじめて完成表となるので、この点でも関係者のご理解とご協力を要請する。

日報入力の際は、その基となるべき現場での作業記録と、集計される年報との関連を勘案して調整しながら入力する必要がある。プログラムに訂正段階を設けてあるが、この処理段階を省くことによりスピーディに処理が可能となるからであり、作業計画の組立・実行の処理経過等に熟達する必要がある。